

ライスアイランド

R I weekly レポート

回覧用

1 2 3

〒500-8322

岐阜市香取町3-38

電話 058(253)0310

FAX 058(252)5115

2006年11月4日

vol.186 担当 古賀

～ シリアル・ルネッサンス～ <http://www.riceisland.co.jp>

## 企業は環境問題に、いつまで無関心でいられるのでしょうか？

私たちはかつてない環境変化に直面しています。

オゾンホール拡大から、色々な面で複合的な温暖化は止められないばかりでなく、勢いがまっています。

IPCCの報告書では、20世紀中の地球の平均気温は100年間で約0.6℃上昇しましたが、このまま推移すると21世紀末までに平均気温は、1990年と比較して、1.4～5.8℃上昇すると予測されています。

地球温暖化で気温が上昇すると、南極や北極の氷、高山の氷河や氷原が融け始め、そして永久凍土までもが融けると予測されています。

すでに、北極海の春と夏の海氷面積が1950年代と比べて10～15%減少し、ここ数十年、晩夏から初秋における北極の海氷の厚さが約40%減少しました。そのような現実の中、食料がエタノールなど燃料に使われ始めています。オイルと変わりなく、いずれ投機マネーなどが介入してくることによって、自給率40%代の日本は深刻に食糧不足に悩む時代がそう遠くなくやってきます。

このままでは、コンビニに行けばお金で食べ物が買える時代ではなく、食べ物を入手するにも利権・保証などが必要になってくる世界規模の問題と化すでしょう。

日本では、その自給率の低さだけでなく、農村地の高齢化が進み、耕作放棄地が増加しています。これに光を当てていくことで、食糧の保証と、企業価値の創造性を高めていくことにもつながります。

\*\*\* 全国で農作業 ～アストラゼネカ全従業員～ \*\*\*

英系医薬品会社のアストラゼネカ(大阪市、加藤社長)は十一月一日、全従業員が全国の農村で農作業や環境整備に携わる。派遣社員も含む約三千人が全国各地の棚田や果樹園などを訪れ、地域ニーズにあったボランティア活動を行う。社会的責任(CSR)活動の一環として取り組む。～中略～北海道から九州まで、高齢化や過疎が進む国内四十箇所の農村を、それぞれ三十～百五十人の従業員が訪問する。各地のニーズにそって農作業や農地周辺の環境整備などに携わる。農村の象徴である棚田での草刈りや復興作業が最も多く、他移動では樹木の冬囲い、福岡県では垣の収穫作業などを手伝う。

(日経産業新聞 2006年10月27日)

このように全社での取り組みを始めた企業も出てきています。現在、お金を稼ぎ出すことだけでなく、どうしたら社会への貢献になるのかということが求められてきています。また、それこそが今後、社会と消費者の求めていくべき方向性ではないでしょうか。

農業と環境は密接につながり、その先に食があり、その中で社会は存在している区なのです。企業価値を高め、遠くない未来にやってくるであろう食料危機への備えとしても、一步一步、少しずつ、やっていくべきことを発見していくことの方向性が見え始めてきませんか。

\*\*\* 農業体験へのアクセスは \*\*\*

<http://agriland.jp/forcompany.aspx>